

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.11 November 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
神話に見る創造の試行錯誤
／井上 昭洋 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(20)
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑨
／加藤 匡人 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (28)
災害復興における宗教団体の支援：日台比較の視点から
／山西 弘朗 3
- ・ 英語文献にみる天理教 (12)
『The Gist of Japan』(2)
／尾上 貴行 4
- ・ イスラームから見た世界 (最終回)
イスラームと世界、そして日本のこれから
／澤井 真 5
- ・ 日本占領期の香港—植民地研究の視点から— (6)
日本による植民地統治の手段としての「同化」教育
／山本 和行 6
- ・ 2025 年度公開教学講座：「元の理」の学術的研究とその新しい展開を求めて (5)
第5講：「元の理」と福祉思想
／八木 三郎 7
- ・ おやさと研究所ニュース 8
第23回国際宗教学宗教史学会 (IAHR) 世界大会で発表／写真展「天理大学100年」(第2期)を開催／第380回研究報告会 (9月30日)

巻頭言

神話に見る創造の試行錯誤

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

ハワイの創世神話では、大地の女神パパと天空の男神ワーケアが交わり、最初にハワイ島やマウイ島などが誕生する。その後、互いに浮気をして、オアフ島などが誕生するが、よりを戻した二人の間にカウアイ島やニイハウ島などが誕生した。さらに、パパとワーケアの間にはホオホークー・カラニという名の娘も生まれた。成長した娘の美しさに心を奪われたワーケアは娘と交わり、ハーロア・ナ・カラウ・カパリリという名の子を身ごもらせるが、流産してしまう。その亡骸を土に埋めると、そこからハワイ人の主食となるタロイモが芽吹いた。次に二人の間に生まれた元気な男の子は、タロイモになった長男の名にちなんでハーロアと名付けられた。このハーロアが最初の人間であり、彼の子孫が現在のハワイ人であるとされる。

このハワイの神話は、原初の神・巨人・人間などの死体から山河や作物などが生まれたとする死体化生神話に分類できる。特に作物の起源を説明するタイプは、インドネシアの伝承にちなんでハインウエレ型神話と呼ばれる。この神話もその一例であるが、ここで注目したいのは、神の人間創造の試みが初めは失敗に終わったという点である。このように「神々が試行錯誤しながら人間を創造した」と物語る神話は世界各地に見られる。

まず思い当たるのは、厳密には人間創造の神話ではないものの、『古事記』のイザナギとイザナミの国産み神話だろう。二神はオノゴロ島に立てた天之御柱の周りを回って交わるようになったが、最初の交わりでイザナミの方から先に声をかけたため、骨のない蛭子が生まれた。彼らは蛭子を葦の舟に乗せて流し、次に生まれた淡島も子の数に含めなかった。いずれも不完全な子であったのだ。その後、天上の神々に伺いを立て、作法通りにイザナギから声をかけると、淡路島や四国など8つの島が生まれ、日本列島を生むことに成功した。

マヤの創世神話である『ポポル・ヴフ』でも、神々は三度の試行を経て人間創造に成功する。最初の試みでは、神々は泥で人間を作ったが、崩れやすく水に溶けてしまったため、失敗に終わった。次に、木を削って人間を作ったが、彼らは丈夫で数も増えたものの、心を持たず神々を崇めることがなかったため、大洪水によって滅ぼされ、その時の生き残りが猿になったとされる。最後に、神々は黄色いトウモロコシと白いトウモロコシを粉にして練り、知恵と心を持った人間を作ることに成功した。ただし、人間が自分たちと同等の知恵を持つことを恐れた神々は、彼らの知識に制限をかけたという。

試行錯誤しながら人間を創造する様は、神々の人間味を感じさせる。しかし、この錯誤は単なる失敗なのだろうか。成功の前段階、前提条件としての失敗には深い象徴的な意味が込められているのではないか。未成熟なゆえに埋められ、流された最初の子、不完全なために滅んだ存在は、単なる欠陥ではない。ハワイ神話の長男のように作物の誕生を約束する犠牲であったり、『古事記』のように正しい儀礼の必要性を教えるものであったり、マヤ神話のように適切な素材を教える教訓であったりする。一方、試行錯誤のプロセスそのものは、人間が本来的に抱えている不完全性を示唆しているのではないか。また、人間は不完全な存在だからこそ段階的に成熟していく可能性を持っているということも語っているのではないか。

ところで、一神教の絶対神は、多神教の神々とは異なり、人間創造の際に試行錯誤しない。『創世記』では、神は土の塵からアダムを作り、彼のあばら骨からイブを作ったとされるが、創造そのものに試行錯誤の痕跡はない。ただし、その後の二人の樂園追放を神の救済計画の一部とみるのか、あるいは神話学的な観点から人間創造の破綻または失敗の一種と見なすのかは、解釈が分かれるだろう。